

# 北東アジア地域自治体等の環境保全に関する情報交流

## 韓国 江原道の環境の現状

### 1 一般現況

- 江原道は朝鮮半島の中心部の東に位置し、面積は 16,874km<sup>2</sup> で大韓民国 (99,460 km<sup>2</sup>) の 17% を占めています。また、江原道の 81%が山林地帯 (13,671 km<sup>2</sup>) です。
- 行政区域は全部で 18 市郡(7 市、11 郡)、人口は 153 万人であり、これは大韓民国(460 万人)の 3.3% を占めています。また、年平均降水量は 1,100~1,300 mm、平均気温は 10~12°C、254 の河川と 8 個の人口ダム及び 7 個の自然湖があります。

### 2 自然環境

- 江原道は、地理的な特性として大部分が山岳地帯であることから、多様な動植物が棲息しています。このため江原道では、3 つの“生態系保全地域” (70 km<sup>2</sup>)と 8 個の“自然公園”(国立公園 3 箇所 (843km<sup>2</sup>)、道・郡立公園 5 箇所 (36km<sup>2</sup>) )及び 107(国家指定 29、道の指定 78)の“天然記念物”を主要な管理対象として指定・保護しています。
- 江原道には、朝鮮半島を分断している休戦線に沿って幅 4 kmの非武装地帯(DMZ)があり、今まで民間人の出入りが徹底的に制限されていたことから、多様な珍しい野生動植物が棲息しており、貴重な自然資源の一つになっています。江原道ではこれらの地域をユネスコ『接境生物圏保全地域』として指定されるよう推し進めています。

### 3 水質分野

- 江原道は、産業系排水による汚染負荷が他の地域と比べて相対的に少なく、水質汚染物質の発生源の中で特定汚染源(点汚染系)が占めている割合は 55%で、道内の河川の 80%が I 級(BOD 1 mg/L 以下)の水質を維持しています。
- 現在、運営している下水処理場は 14 箇所(457 千 m<sup>2</sup>)で、さらに 2006 年度の完成を目標として 23 箇所(119 千 m<sup>2</sup>)の下水処理場をあらたに建設しており、これらの事業がすべて完成した場合、汚水衛生処理率(下水処理率)が 75~80%に達すると考えています。
- この他にも 17 箇所のし尿処理施設(1,480 トン/日)と 4 箇所の畜産排水公共処理施設(700 m<sup>2</sup>/日)を設置・運営しており、最近では農業活動で発生する非特定汚染源(面汚染系)を低減させるために、新環境農業に対しての育成・支援に行政力を集中して推進しています。

### 4 大気分野

- 大気汚染の実態把握のために道内 6 箇所の「大気汚染常設測定網」を運営しています。2003 年度の年平均主要大気汚染物質の測定結果は、二酸化硫黄(SO<sub>2</sub>)が 0.0045ppm、二酸化窒素(NO<sub>2</sub>)が 0.0205ppm で道内の全地域で環境基準を達しており、他の地域と比較しても良好な状態 を維持しています。
- 大気の改善のために、セメント焼成炉、及び発電所などの“大型大気汚染物質の排出事業場”に 24 時間監視測定網を設置し、道が直接運営しています。また、主要な都市の大気の改善のために、2007 年までに、398 台の市内バスを天然ガス使用バスに交替する事業を進めています。

## 5 環境施策の推進

- 江原道の“自然生態・水・空気”を、全国第1のきれいな資源として持続的に保全するために『徹底した安全と完璧な開発』という江原道の環境原則を進めています。これにより、昨年12月全国で初めて、道政業務の全般に渡ってISO 14001を取得しました。
- 科学的な河川の水質管理のために『水管理GISシステム』の開発を進め、また、豊かな水資源を道民の利益として還元するために、『環境的な水利権』についての研究・開発を進めています。